

12月8日、9日の本会議では、10名の議員が一般質問を行い、市政全般にわたり活発な議論が展開されました。主なものを紹介します。(発言順に掲載)

## 園・保育所の状況について



北川 克則 議員  
(令和新風加西)

**問** 待機児童や保留児童がいるとのことだが、受入れの状況は。

**答** 令和3年4月1日以降、待機児童数は2名から少しずつ増えて8月1日の11名をピークに、12月1日現在で8名です。保留児童は、15名から若干の増減を繰り返しながら推移し、12月1日現在で32名です。増減推移の中で8月から9月にかけて待機児童数がマイナス6、保留児童数がマイナス2と減少しました

が、10月1日に小規模保育所が開園したことに伴う効果と考えます。待機児童、保留児童のほとんどがゼロ歳児から2歳児となっています。

**問** 小規模保育所開設の状況について。

**答** 令和3年10月1日に愛の光ナーサリーが開園しました。令和4年4月にはサンライズキッズ保育園加西園が北条地区に開園する予定です。

**問** ゼロ歳児から2歳児の待機児童解消に向けた今後の方向性について。

**答** 待機児童、保留児童は北条地区と九会地区に多い状況です。令和4年度には、北条地区と九会地区にそれぞれ1園ずつ、小規模保育所の開園に向けた手続

を進めています。

子育て世代のニーズに応え、加西市に住み、子育てしていただける環境を提供できるように、ゼロ歳児から2歳児の受皿を確保し、待機児童、保留児童数の削減に努めます。

**意見** 少子化ではあるが、3歳未満児の保育利用の需要は伸びているので、受入体制の拡充を進め、子育て支援を充実させていただきたい。受入体制の拡充を進めるに当たっては、職員の負担増が懸念されるので、職員の処遇の改善や工夫等も併せて検討していただきたい。

### ■その他の質問項目

- ・学校教育における障がい者との交流について
- ・県道及び市道の整備について

## 加西市未来の学校構想検討委員会について



中右 憲利 議員  
(令和新風加西)

**問** 令和3年10月11日に始まった加西市未来の学校構想検討委員会の概要について。

**答** 少子化の進行による小中学校の再編や地域との連携による学校づくりなど、望ましい教育環境と具体的な方策について協議します。保護者代表や代表校長、代表区長、代表園長、学識経験者など17名に委員をお願いし、1年間協議していただきます。

**問** 小学校は地域の伝統と気風を受け継ぐもので、地域の

まとまりと一体感を醸成する地域の核でもある。子供たちが歩いて登下校する姿が見られないと寂しいと感じるが、教育長の思いは。

**答** (教育長) 地域に子供たちの声がたくさんあることは大変大事だと思っています。また、小規模校の教育の良さも十分にわかっているつもりです。今、教育、学校の在り方を考えることは、20年、30年後の加西市の大人の生き方に強い影響を及ぼす大変重要な課題です。検討委員会で加西市ならではのビジョンを示し、未来の大人に恥ずかしくない学校構想を描きたいと切望しています。

**問** 市長は初当選の際、前市長の11校から6校への小学校統廃合案に対して、11校存続を主張された。今、検討委員会を立ち上げられたが、その思いは。

**答** (市長) 人口増を図って学校の存続を目指しましたが、結果は厳しい状況で、3期目は学校の在り方の検討をマニフェストにしました。任期中に一定の方向性を示す意味で、令和5年3月議会に何らかの提案をすることが市民に対する真摯な対応だと考え、逆算してこの時期の立ち上げとなったこと。教育委員会で視察や研修、議論をし、教育長が教育委員の意見を素案としてしっかりまとめられたこと。最終的には令和4年9月に答申、その後百人委員会を開催します。「これで加西市の教育は素晴らしいものになる」と私が見立てましたので、立ち上がったということです。

### ■その他の質問項目

- ・未来型児童館について
- ・加西病院の改築及び新病院改革プランについて